

平成30年3月19日（月）

午後 1時00分 開会

午後 1時23分 閉会

場所 : 全員協議会室

〔報告案件〕

1 半田市立半田病院新病院建設候補地について

榊原純夫市長：まずもって、本日は臨時のかたちで全員協議会の開催をいただきましたこと心より感謝申し上げます。後ほど担当部長から内容についての説明をさせていただきますが、昨年の12月末から昨日まで4回にわたりました、半田市立半田病院新病院建設候補地検討委員会が開催をされ、昨日答申を頂戴いたしました。多角的かつ深堀をするかたちで候補地について協議をいただきました答申でございます。その答申結果を重く受け止めさせていただきますとともに、私なりに昨晚一晩考えさせていただきます、その答申を尊重するかたちで新病院の建設地につきましては半田運動公園に決定をするということで、今朝開催の幹部会議にも私の意思を表明させていただきます、全幹部にその点について承認を受けました。答申書の裏面に、今後の要望ということで付帯意見が7点ついておりますが、当然この7点について積極的に取り組ませていただきますが、とにかく1日も早く新しい病院をつくる必要となっております。全国的にも大変黒字で有名な小牧の新病院が現在の医療環境の悪化の中で、あの小牧市民病院ですら赤字に陥っているという現状があります。新しい病院を早くつくって、多くの優秀な医師がそこで働きたいという病院、そして近代的な医療機器ですとか、そういったものを備えて半田市民のみならず、近隣の市町の皆さんの健康、命を守るための新しい病院を1日も早くつくってまいり努力をしてみますので、よろしくようお願い申し上げます開会にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

竹内甲司病院事務局長：資料に基づき説明

石川英之議員：昨晚一晩考えた結果答申を尊重するというかたちになったということなのですけれども、一晩どういうことを重点的に考えてこの結果になったのかお聞かせください。

榊原純夫市長：これまで3回の議論の内容については、議事録などを読ませていただいておりますし、DPCと言いまして病院を取り巻く人口構成ですとか、そういったことも議論していただきましたのでそういった内容を斟酌させていただいて、委員会から答申を頂いた内容が私も一番腑に落ちましたのでそのように判断させていただきました。

石川英之議員：私は明日、総務委員会で聞ける状況がありますので、そのときに細かくは聞きたいと思っておりますけれども、特に先ほどの答申の裏面の7点のうちの下から2段目、常滑市との協議ですけれども、第3回目の検討委員会の中で名古屋大学病院の副院長先生が、常滑市との協議に関してはそう簡単な話ではな

いですというご発言があったのですけれども、そういったことに関して市長は絶対的にこれは、仮に常滑と話がつかなくても強引にでもここにつくってしまう気持ちを持って、この運動公園に決定をしたのかどうかだけ聞かせてください。

榊原純夫市長：強引にということはないですが、あの場所が最適であるということとは私も委員の皆さんと思いを同じくしたところでございます。距離が2.7キロしか離れていないということもありまして、すでに名大病院の院長先生などもそのことを心配していらっしやいまして、このままでは、共倒れになる可能性がある、それではいけませんので、また今、地域医療構想の中でも半田病院が地域の第3次救急を担う中核となる病院であるということがありますので、やはり機能分担、機能連携をしていくことは必要だと思っておりますので、今日幹部会議で決定をさせていただきましたので、すぐ常滑の市長さんと病院の院長先生を含めて協議をしたいと接触を始めたところです。なるべく、早い時期に相談させていただきたいと思っています。仄聞するところによりますと、常滑の商工会議所なども常滑の新病院は、やはり半田との連携を図るべきだということをおっしゃっていただいているそうでありますので、いずれにしても大事な病院でありますので、機能の連携を図ったり、可能であればこれは個人的な考えですが、独立行政法人として、一つの独立行政法人としてやっていくことが、責任を持って経営していく観点から一番必要かと思っておりますが、相手があることですのでそれらも含めて協議をさせていただきたいというふうに思っています。

小栗佳仁議員：それでは数点お伺いしたいと思っております。昨年度市長選挙が行われて以後、市職員駐車場に建設するということで住民説明会を行われたという認識であります。そういったことがありまして、その後ですね、大村愛知県知事の助言を受けたという経緯がありまして、この点市民に十分な説明がなされていないというところがございます。その点をどのように考えているかという点と、今回検討委員会の答申を受けてですね、決定したことによりまして、市長はどのように市民の方々に説明をされていくのか、今後の対応をどのようにお考えなのかお聞かせいただきたいと思います。

榊原純夫市長：市報等で記事を書けるよりも、いろんな新聞がすでにそのことを載せていただいておりますので、十分ではないかもしれませんが、次の建設地は運動公園でということで、また、今日の全員協議会を受けて記事を書けていただけたらと思いますので、十分ではないかもしれませんが、情報としては提供される状況にあると思います。私もこれから機会がある毎にそのことについては十分に地域に説明をさせていただきますし、例年行政実態点検などもやっていますが、今年もその年ですがそのときにもそれぞれの地域で話をさせていただきますし、いろんな会合があるときにはそのときに必ずそのことに触れて十分にご理解をいただきたいと思っておりますし、すでに近々北部のほうから区長さん方が署名していただいて要望書を頂いておりますので、その方たちにも22日にきちんと説明をさせていただくつもりですし、今後も機会がある毎に市民の皆さんに対しましても細かく詳細に経緯、結果について報告をさせていただくつもりであります。

小栗佳仁議員：ぜひとも、そういった説明の機会に、ある程度アクセス道路など

の心配もございますので、市民の方々からやはりアクセス道路についてもいろんな意見を伺って最善を尽くしていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

榊原純夫市長：当然新しい病院へ至るところの直接のアクセスも整備する必要がありますが、今、半田口の名鉄の踏切を見ますと大変交通渋滞がありますので、阿久比地内で未整備となっけています環状線の整備をすることが、北部の皆さんが救急車などで迅速に病院にアプローチできるための最速の手段になると思いますので、これからこれも相手があることですので、環状線の起終点である武豊町さん、阿久比町さんそれから私ども、それから市のみならずできればそれぞれの議会にもご理解をいただいて、一つの協議組織的なものが作ればと思っていますし、商工会や商工会議所にも声をかけさせていただいて一丸となって環状線の早期整備に邁進してまいりたいというふうに思っております。

中村宗雄議員：1点お尋ねしたいのですが、これで建設候補地が決まったことで約1年にわたり、迷走というか、混乱してきたこの件が終わっていくと思うのです。確か去年の3月に赤レンガをどうだといったところから、この迷走が始まったと思うのですが、これで一旦区切りがついたわけですので、市長としてこの問題をきちっと総括することと、そしてこの責任の所在をはっきりさせること、この2点についてはいかがお考えでしょうか。

榊原純夫市長：総括と言いましても、いろいろ迷走したことによって、完了の時点が後ろにずれ込んだことは、これは私の責任であると思っていますし、そういった意味で責任を果たす意味でも、一日でも少しでも早く新しい病院を完成させていただきたいということで思っておりますのでご理解、ご協力を申し上げたいと思います。

中川健一議員：中村議員と同じような質問になるのですが、市長が職員駐車場に内定しましたと言ったのが平成28年の6月、今日は平成30年の3月末ということで、約2年間遅れてしまったわけですね。早くしなければいけないと言いながら、2年間も遅れたことに対して、市民に対して全く謝罪がないわけですが、市民に対して謝罪をする必要はないのでしょうか。

榊原純夫市長：皆さんの意見に耳を傾けさせていただいた結果、時間はかかりましたが、最終的に半田市のみならず地域周辺の市町の皆さんにとっても一番いい場所になったというふうに思っておりますので、そういった意味でより効率的に早くつくってまいりたいというふうに思います。ですから、遅れたことに関しては忸怩たる思いがありますが、このことで今の時点で私が市民の皆さんには謝罪するつもりはありません。早く新しい病院をつくることが私の責務だと思っていますので、その責務を果たす意味で職員の先頭に立って邁進してまいります。

中川健一議員：やはり私は、市長は市民に謝罪しないといけないと思うのです。平成28年の6月にきちっと世論とか、大村愛知県知事の動向を読み解いて、高台移転という判断を2年前にしておけば、この2年間は無駄にならなかったということではないかと私は思います。その結果今何が起きているかというと、10億円市長の判断ミスによって、2年間決定が遅れたことによって10億円経費が増えるのです。これは、市役所が議会の答弁で今の半田病院を2年遅らせて使うと10億円、3年遅らせて使うと16億円の大規模修繕費がかか

ります、ですので早く病院を移転させないといけない、そういう話だったと思います。つまり市長がこの2年間判断ミスで先送りになることによって10億円半田市民の税金が余分にかかるということになるのですが、それに対して責任はないのでしょうか。

榊原純夫市長：これはいろいろ熟慮した結果でありますので、決してミスではないと思っています。

嶋崎昌弘議員：これで半田運動公園になったのですが、実際にすると今度建設工期もいろいろあると思うのですが、これに対して半田運動公園を使うということは、運動する代替地に関しては政治家として次のステップとして考えなければいけないと思うのですが、その辺のところは、昨日決めて今日のことなので、市長の頭の中ではどのような考え方があって、運動公園の代替地をどのように考えているのかお伺いします。

榊原純夫市長：どこまで現在の半田運動公園の使えているところが使えなくなるか、またこれから詳細が決まっていますが、いずれにしても代替機能は早急にまた考えさせていただきたいと思いますので、できれば近隣だとかそういったところで可能性を探ってなるべく早い時期に具体化をして、また皆さんにお示しをさせていただきたいというふうに思います。

榊原伸行議員：先ほど市民説明について市長の方からの発言で、新聞各社の報道とか、北部の方たちのところへ22日に出向いてお答えするということなので、それだけでいいのでしょうか。この300億円近くの予算を使ってやるものですから、地域の方たちに説明する責任が、もっと深く入って説明する責任があるのでないかというふうに思いますがいかがでしょうか。

榊原純夫市長：おっしゃるとおりでございますので、機会をどんどん作って説明させていただきたいと思います。